イタリアのルネサンス　№96からつづく　　絵画・彫刻、建築を中心に。

１）15世紀後半から16世紀にかけて、「**ルネサンスの三大巨匠**」（**３大天才**）が現れた！

メディチ家の【1:　　】（ロレンツォ=デ=メディチ1449-1492）は、フィレンツェの専制君主。ミケランジェロの才能を発見し、レオナルド=ダ=ヴィンチの友人であった。聖ピエトロ大聖堂の改築を推進した（そのための贖宥状販売は宗教改革の原因となる）教皇レオ10世（位1513-1521 ロレンツォの息子）もルネサンスの保護者。**16世紀にはルネサンス運動の中心はローマに移り最盛期を迎え、三大巨匠**が活躍した。

２）【2:　　】1452-1519 Leonard da Vinci

画家、発明家、技術者、軍事技術者、築城家、アスリート(体力･運動神経抜群)。パトロンはルドヴィーコ=スフォルツァ公。彼は、ルネサンスの理想像＝**万能人** そのものである。

《右の作品》深緑の衣装を着た一人の女性が、僅かに微笑んだ半身の歴史上最も有名な肖像画。これほど賞賛、模写されてきた絵は他に例を見ない。現在パリのルーヴル美術館に展示されている。1506/7年に完成（推定)、完成後も作者の手元に置かれ、フランスのフランソワ1世の招請で作者と共にアンボワーズ城近くのクルーの館へ移り、その後1510年頃にフランソワ1世によって買い上げられ、フォンテーヌブロー宮殿に保存されたとされる。その後ルイ14世によってヴェルサイユ宮殿に移され、フランス革命後にはルーヴルに落ち着いた。その後もナポレオンが自分の寝室に持っていったり、普仏戦争や第一次、第二次世界大戦の際にフランス国内の安全な場所に移されたりしている。人物を「バストショット」のアングルでとらえ、遠景を背景に配し、頭を頂点にしてピラミッド状に人物を置いた構図は、その後の肖像画に大きな影響を与えた。肖像画として初めて別に構成した空間の前に人物を描いたものの一つでもある。1911年、盗難にあったこともある。なお、彼はフランス滞在中に没している。

『【3:　　】』
レオナルド=ダ=ヴィンチ

上端のみ糊付け（以下同じ）

『【4:　　】』
レオナルド=ダ=ヴィンチ

『最後の晩餐』（レオナルド=ダ=ヴィンチ)、『最後の審判』（ミケランジェロ）の作者を問う問題は、モノクロ写真入りでよく出題される。

《上の作品》『最後の晩餐』は、レオナルドのパトロンであったルドヴィーコ・スフォルツァ公の要望で描いた。『新約聖書』の最後の晩餐の情景（「あなた方のうちのひとりが、私を裏切ろうとしている」マタイによる福音書第26章20節）を描いている。このテーマは宗教画ではありふれたもので、多数の画家による無数の作品例が存在する。この作品は**サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院（ミラノ）の食堂の壁画**として描かれた420×910 cm の巨大なもの。キリストの向かって左のこめかみを消失点とする**一点透視図法**で描かれ、洗浄作業によってこの位置に釘を打った跡が見つかった。そこから糸を張ってテーブル、天井、床などの直線を描いたと考えられている。当時の絵画の聖人には必ず後光がさしていたがレオナルドは12人の弟子を等しくテーブルの奥側に配置し、後光も描かなかった。壁画や天井画にはフレスコ画の技法を用いるのが普通だが、漆喰を塗り、それが乾ききるまでの8時間程度で仕上げる必要があるため、レオナルドはこれを嫌いテンペラ画の技法で描いた。耐久性に乏しく、1498年に完成したが、本人の存命中に早くも劣化が始まった。本当に食堂として使われていたため食事の湯気や湿気で損傷が進み、厩舎だった時代には牛馬の排泄物のガスで損傷し、第二次世界大戦では米空軍の空爆で建物は半壊したが修道士たちが必死に積んだ土嚢で絵は守られた。1977-1999に洗浄作業が行われ、NHKがCGで復元を試みたものが資料集に載っている例が多い。レオナルドは絵画作品に「暗号」を埋め込んだとする本が出版されているが、学会ではあまり評価されていない。『ダ・ヴィンチ・コード』(The Da Vinci Code)（アメリカ、2003）

３）【5:　　】1475-1564 Michelangelo

本人もそう言っているように本来は**彫刻家**である。しかし、システィナ礼拝堂（聖ピエトロ大聖堂のすぐ裏、ヴァチカン宮殿内の付属施設）の祭壇画「**最後の審判**」、同礼拝堂の大天井画「天地創造」の作者としてもあまりにも有名。№96参照。

『【6:　　】』
ミケランジェロ

《右上の作品》サヴォナローラの厳格な神権政治（1494～98年）が終わり、共和政のシンボルとしてフィレンツェの毛織物職人組合の依頼で1501年から3年がかりで制作された。1512年、ハプスブルク家の支援を受けたメディチ家がフィレンツェに復帰したが、後述のような社会の混乱でフィレンツェ社会の活力は失われ、イタリアのルネサンスは終息に向かっていた。ダヴィデは倒した巨人の頭部を足元に置いた勝利者の姿で彫るという伝統を打破し、決戦に臨む前の緊張感に溢れた一瞬の姿を克明に彫り上げた。重心を右足にのせ、もう左足を自由に遊ばせて身体全体の流れをS字形にしてバランスを取る、いわゆる「コントラポスト」の構図を用い、戦いを目前に自軍が怯むのを感じ、臆することなく挑むように見つめる緊張感に溢れるダヴィデの視線は敵のゴリアテに向けられている。高さ4.34m、重

さ約６トンという大作。40年も放置されていた中古の石材に彫られ、完成後300年以上屋外展示されていた。現在はフィレンツェのアカデミア美術館に展示され、年に125万人の観光客が訪れる。近年、足首部分に微細なヒビが発見され崩壊が危惧されている。

４）【7:　　】1483-1520 Raffaello

約40点の聖母子を描いたので、「聖母の画家」と呼ばれた。最も美しいと言われるのは「**大公のマドンナ**」。「椅子の聖母」のように円形の枠内に描いた作品もある。《いずれも右》

『【8:　　】』
ラファエロ

『椅子のマドンナ』
ラファエロ

『大公のマドンナ』
ラファエロ

《左の作品》はヴァチカン宮殿内の壁画（1509/10フレスコ画）である。これが聖母子像で名高いラファエロの作品であることを忘れがちであるが、**ラファエロの最高傑作**である。約20人のギリシア哲学者が描かれ、**盛期ルネサンスの古典的精神**を具現化したものとされている。

５）ルネサンスの運動は政治思想の世界にも影響を与えた。

イタリアの政治的凋落を目にした【9:　　】1469-1527 Machiavelli は『君主論』を著し(1532年出版)、「近代政治学の祖」とされる。政治の世界では、目的のためには手段は問わない、いわゆる「権謀術数」を認める考え方は『君主論』からきているとされる。彼はイタリアの軍人・政治家のチェザーレ=ボルジア（Cesare Borgia, 1475- 1507）に理想の君主像を見いだした。 07W

なお、マキャヴェリは1498年、メディチ家の一時的後退で成立したピエロ・ソデリーニ政権下の第二書記局長に登用（内政･軍政を所轄）され外交官として外国に派遣されることも度々だった。1513年、ボスコリ事件に連座したマキャヴェリは、ジョヴァンニ・デ・メディチ（後のレオ10世）新政権下で莫大な罰金を科せられて一時拘束された。激しい拷問を受けた後に釈放され、著作活動に専念したが、1516年に再就職活動を開始。謁見の機会が与えられた時、権力者ロレンツォ・デ・メディチにその場で献上したのが『君主論』である。07W

なお、ミュージカル『キャッツ』に登場する架空の猫マキャヴィティ（Macavity）は、プロの殺し屋という劇中で唯一、本当の悪人。赤茶猫。法に楯突く反逆者で「犯罪界のナポレオン」である。名前の由来はマキャヴェリとモリアーティを組み合わせたもの。原作者T・S・エリオットはシャーロック・ホームズの愛読者だった。

６）イタリアルネサンスが16世紀のはじめにローマを舞台に最盛期を迎え、16世紀前半以降、急速に衰退した。その原因は何か？《頻出》

①イタリアの支配をめぐる神聖ローマ皇帝とフランス王の戦いである【10:　　】1494-1559 の影響は深刻だった。1527年5月から約1年間、神聖ローマ皇帝軍はローマを占拠した。彼らはローマで殺戮、破壊、強奪、強姦などの非道を行った。これを、ローマ略奪（サッコ・ディ・ローマ Sacco di Roma）と言う。ローマに集まっていた文化人・芸術家は殺され、あるいは他の都市へ逃れた。文化財は奪われ、教会なども破壊され、ルネサンス文化の中心だったローマは壊滅的打撃を受け、これによって1450年代から続いていた盛期ルネサンス時代は終わった。イタリア戦争は主権国家体制確立に向かう契機となった重要な戦争で、別に詳しく扱う。

皇帝軍のドイツ人傭兵にはカトリックを憎むルター派が多かったという。また長期の行軍に給料の支払いも悪く、飢えた兵も多かった。スペイン兵が最も狂暴だったとも言われるが、略奪の原因は統制を欠く混成軍団が、長期の行軍後、暴走したことによる。カール５世自身はカトリック教徒であり、これほどまでの略奪を意図していたわけではなかった。

②オスマン帝国は1516年、地中海東岸を占領し、1538年にはプレヴェザの海戦に勝って地中海の制海権を掌握した。オスマン帝国は香辛料貿易の国家による独占をはかり、外国の商人に莫大な貢租を課した。その結果、東方貿易が衰退し、イタリア諸都市は衰退した。香辛料の需要はますます増え、供給は減るばかりだったので、ヨーロッパではアジア直行航路開拓の要求が高まり、大航海時代が到来した。それが比較的早く成果を得て、貿易の中心がスペイン・ポルトガル・フランス・イギリス・ネーデルラントなど【11:　　】側の国々に移ると東方貿易はさらに壊滅的打撃を受けた。

③イギリス毛織物工業の発達により、【12:　　】の特産地であったフィレンツェなど北イタリア諸都市の貿易上の有利さが失われた。

④宗教改革に対抗して、ローマ教会が文化への規制を強めた。

７）ルネサンスはイタリアでは衰退したが、ルネサンスはアルプスを越えヨーロッパ全域に広まる。→№98

設問　《頻出》次のうち，ルネサンス時代に一貫して共和政だった国を二つ選べ。07W　　正解は　ハとホ

イ　ナポリ　　ロ　サヴォイア　　ハ　ジェノヴァ　　ニ　ミラノ　　ホ　ヴェネツィア